

特定非営利活動法人日本ガラパゴスの会 第12期通常総会（報告）

2017年9月23日（土）14:00～16:00

議事次第

於 中目黒アトラスタワー第2集会室

1. 開会（司会：櫻 博子）
2. 理事長挨拶：清水善和
3. 総会成立の確認（報告：奥野玉紀）

	返信あり		返信なし	計
	出席	欠席・委任状		
正会員	8	41	22	71
比率	11.3%	57.7%	31.0%	100%

4. 議長の選出：議長：清水善和
5. 議事録署名人（2名）の選出：櫻 博子、奥野 玉紀
6. 議事
 - 6.1. 第1号議案：第12期（2016年7月1日～2017年6月30日）事業報告および収支報告（奥野）
監査報告：監事
 - 6.2. 第2号議案：第13期（2017年7月1日～2018年6月30日）事業計画および収支予算（奥野）
 - 6.3. 第3号議案：役員を選任について（任期：2017年10月1日～2019年9月30日）

*第1号～第3号議案について、議場に諮ったところ、軽微な修正を行った上で、全ての議案が満場一致で可決・承認された。

7. 質疑応答等
8. 閉会

【総会特別企画】ガラパゴス写真コンテスト2017選考会

応募総数31点の中から、総会参加者9名で、優秀賞12点および最優秀賞1点を選出した。これら13点はガラパゴスカレンダー2018に採用される。

第12期(2016年7月1日~2017年6月30日)事業報告

第12期の事業報告は、以下のとおりである。

※「担当」は理事/監事、「協力」は主に会員を記載(敬称略)。その他多数のボランティア等が関わった。

<p>(1) ガラパゴスに関連する環境教育及び普及啓発に係る事業</p>
<p>① 「日本・ガラパゴス50年史」発行(9月)。PDFファイル(デジタルデータ)、および印刷30部。前会長伊藤秀三、および理事西原弘による編著。ダーウィン研究所が1964年に作られてからこの50年の間に、日本とガラパゴスの間で行われた様々な交流、支援、協力、活動などをまとめた書である。どのように一般に公開するか(広めるか)は、要検討。担当:西原、協力:伊藤秀三</p> <p>② 「ガラパゴス写真コンテスト2016」開催。写真募集期間:6月末~8月末。応募作品数55点。選考:総会(9月)特別企画として、参加者の投票にて最優秀賞1点、優秀賞12点、決定。優秀賞に副賞としてガラパゴス産コーヒーとエクアドル産チョコレート、およびカレンダー贈呈。担当:奥野他</p> <p>③ 「ガラパゴスカレンダー2017」制作・頒布。写真コンテスト優秀賞作品を採用。初版、印刷会社の印刷ミスと誤植により、直ちに重版(初版分は一部希望者に配布)。12月初旬に重版分500部印刷、発送開始。寄附の特典として頒布198部、会員配布135部、支援者などへの進呈58部。残部100部を3月に旅行者に贈呈(寄附集め用として)。手元残9部。担当:奥野</p> <p>④ 「第4回高校生の島嶼科学交流会」(12月17日@東邦大学理学部)冒頭において、日本の高校生(約100名)と、インターネット中継で、サンタクルス島国立ガラパゴス高校を繋ぎ、ガラパゴス高校の生徒にガラパゴスの保全活動や学校の取り組みなどについて1時間余り発表してもらった。途中中継が途切れることもあったが、双方がオンタイムで繋がっていることに感動を覚えた生徒も多くいたようで、お互いの理解や関心が深まった、良いイベントとなった。担当:奥野、協力:赤間亜紀、アンドレス・ロセロ</p> <p>⑤ 「ガラパゴス体験学習ツアー」企画:3月の春休み時期に渡航を予定して企画したが、希望者が最少催行人数に達しなかったため、中止となった。担当:波形、奥野</p> <p>⑥ 小笠原諸島返還50周年記念事業「ガラパゴスの生徒を小笠原へ招聘」。小笠原村が公募した記念事業に、NPO法人小笠原自然文化研究所(IBO)が応募し採択される。JAGAは申請段階から協力した。来年3月中旬~下旬、ガラパゴスから高校生3~4名、および引率の大人が来日し、小笠原を訪問する予定(小笠原の滞在は10日間ほど)。現在生徒の選考中。選考はダーウィン研究所の奨学生制度を活用。担当:奥野</p> <p>⑦ 日本エクアドル外交関係樹立100周年(2018年)記念事業 「ガラパゴスと小笠原」展の企画(詳細未定)。両所の自然を、科学的な切り口で分かりやすく紹介する企画を、国立科学博物館と協議中。この他、ガラパゴスでの日本紹介イベント開催の企画に協力した。</p> <p>⑧ 旅行社((株)クラブツーリズム)による「ガラパゴスツアー」企画への協力。8月の施行予定だったが、参加者が揃わず催行中止に。担当:清水、奥野</p> <p>⑨ 「ガラパゴス鳥類ガイド日本語版」制作。英語版「Galapagos Bird Guide」のイラストを採用し、鳥類の英名、学名、日本語名をダーウィン研究所の最新リストより引用して記載。英語版を発行しているアメリカの出版社に1000部発注した。輸入および頒布は次期事業。担当:里見、奥野</p> <p>⑩ その他、出版関係、テレビ番組制作会社などからの取材や監修依頼、随時対応。</p>
<p>(2) ガラパゴスに関連する情報の収集および提供に係る事業</p>
<p>① 旅行社ワールド航空サービスによる講演依頼を受け、協力(9月、11月、6月)担当:清水、奥野</p> <p>② 小笠原村役場職員のガラパゴス渡航、コーディネート。1月末~約1週間、ガラパゴスの観光管理や保全機関の運営について視察・調査するため、国交省の予算が付き、小笠原から3名の視察を実施。視察先のアドバイスやダーウィン研究所へのアポ調整、ガラパゴス全般の情報提供などに協力した。担当:奥野</p> <p>③ NHK BSプレミアム「プレシャスブルー ガラパゴス、奇跡の海を撮る」(3月18日放映)企画段階より協力。これまであまりクローズアップされたことがなかったガラパゴスの海の中に焦点を当てた番組で、ガラパゴスの海の素晴らしさが表現された。担当:波形、奥野、協力:飯崎晶子</p> <p>④ 取材協力:NHK「ダーウィンが来た!」、「赤道」プロジェクト(2018年放映予定)、「ブラタモリ」(奄美大島の回)などの番組に、ロケ前の情報提供、取材へのアドバイス、番組編集の際の情報提供などを協力し</p>

第12期(2016年7月1日～2017年6月30日)事業報告

た。2018年の日エク100周年記念のガラパゴス関連番組や、小笠原返還50周年記念番組なども企画が進んでいる。担当：波形、奥野

- ⑤ SNSによる情報発信：Facebook、twitterによるガラパゴスに関する情報の発信。ガラパゴスに関わる機関からの発信をシェアしたり、独自記事を発行したりして、計150記事超を発信した。また、日エク100周年記念のFacebookページへのガラパゴス関連記事の投稿も行った。担当：奥野
- ⑥ メールニュースの発行：第62～64号。情報発信がSNS中心になったため、メールマガジンはお知らせ程度になった。担当：奥野
- ⑦ その他、テレビ局などメディアや個別の問い合わせ対応、随時。担当：奥野

(3) 生態系等の環境問題全般に関する情報の収集及び提供に係る事業

特になし。

(4) ガラパゴスにおける環境保全活動の実施及び支援に係る事業

- 1) 「ガラパゴス・ベルデ(緑のガラパゴス)2050」支援：BESSフォレストクラブと共に支援している、ダーウィン研究所(CDF)の植生回復プロジェクト。今期は、サンクリストバル島とフロレアナ島において、学生や子どもたちに対する環境教育や人材育成に焦点を当てたものとなった。

サンクリストバル島では、CDFのスタッフや研究者らが、地域の指導者や学生達と共に、生態系調査を行い、生態系マップの作成を行った。この島の居住区にはCDFが保有する広大な天然林があり、そこを利用して、学生達が自然歩道(エコトレイル)を制作することが決まっており、この準備を行った。またこの天然林内の動植物のガイドブックの制作も学生達が計画しており、これらの調査や準備なども行った。エコトレイルは島民や子どもたちに向けた環境教育や保全の啓発となることが期待され、島民に向けたネイティブ・ガーデン(在来種による庭)のモデルガーデンも設計される予定である。



CDFスタッフから植樹方法を聞く学生達

フロレアナ島においては、島の唯一の学校であるアマソナス学校と共に、生態系のベースライン調査を行い、また学校にあるネイティブ・ガーデンのメンテナンスや新しいガーデンの造成も行った。2016年1年間に、乾燥地での苗の生育機器「ウォーターボックス」を使った植樹によりこの島だけで2000本を超える苗が植えられ、これらのモニタリングも続けられている。野外調査では、在来種だけでなく、外来種のサンプル採取と標本作製を行った。



植物標本の作製

プロジェクト「ガラパゴス・ベルデ2050」は、この2島の他、サンタクルス島、バルトラ島、サウスプラサ島などでも植苗を行い、ガラパゴスの植生回復に大きく寄与している。(複数団体支援による)。

- 2) ダーウィン研究所活動支援：CDF理事長に使途を委ねる形で、研究所の活動費に支援を行った。今期小笠原村役場からの調査団を歓待してくれたり、来年ガラパゴスの学生を日本に招聘するプログラムにおいて学生の選考に協力してくれていることから、それらに関わる経費としての意味も含めた寄附である。

(5) ガラパゴスに関連する国際協力に係る事業

特になし

(6) ガラパゴスに関連する調査研究の実施、支援、及び研究者の支援に係る事業

特になし

(7) ガラパゴスに関連する諸機関の運営又は活動に関する連絡、助言、援助に係る事業

(4)で、ダーウィン研究所の活動を支援。

(8) その他、本会の目的を達成する上で必要な事業

- ・お宝エイド：リサイクルショップに不要品を送ると、査定額+10%が寄附される仕組み。15,224円の寄附。
- ・パンフレットの刷新/印刷。・その他ファンドレイジングのための活動。

平成28年度(第12期:2016年7月1日~2017年6月30日)活動計算書

特定非営利活動法人日本ガラパゴスの会

科目	金額	備考
I 経常収益		
1 受取会費		
正会員受取会費	¥325,000	49名、うち複数年払9名
その他会員/サポーター受取会費	¥429,000	36名、複数年払い4名、学生2名、団体2
計	¥754,000	
2 受取寄付金		
寄付	¥73,654	会員など個人より
3 受取民間助成金		
BESSフォレストクラブ	¥2,400,000	前年度入金分・今年度事業分
帝人株式会社	¥100,000	ボランティアサポートプログラム
計	¥2,500,000	
4 事業収入		
普及啓発事業	¥236,200	頒布に伴う寄附金含む
情報提供事業	¥152,384	取材コーディネート、情報提供、監修
計	¥388,584	
5 その他収益		
受取利息	¥114	銀行利息
経常収益計	¥3,716,352	
II 経常費用		
1 事業費		
(1) ガラパゴスに関連する環境教育及び普及啓発に係る事業		
印刷費	¥253,616	カレンダー印刷・デザイン費
交通費	¥26,457	ボランティア、ゲスト交通費
資料費	¥17,758	資料用録音録画機器の購入
通信費	¥36,648	カレンダー送付等
記念事業費	¥47,997	「日本・ガラパゴス50年史」印刷代
会議費	¥6,240	セミナー、ボランティア会議会場費等
消耗品費	¥3,230	カレンダー送付用封筒など
計	¥391,946	
(2) ガラパゴスに関連する情報の収集及び提供に係る事業		
インターネット費	¥12,960	ホームページのサーバー代
調査・資料費	¥13,212	資料購入代
計	¥26,172	
(3) 生態系等の環境問題全般に関する情報の収集及び提供に係る事業	¥0	
(4) ガラパゴスにおける環境保全活動の実施及び支援に係る事業		
1)ペンギン調査費	¥0	
2)ガラパゴス・ベルデ2050	¥2,308,314	BESSフォレストクラブ支援事業(\$20,000)
3)ダーウィン研究所活動支援	¥220,713	ダーウィン研究所運営資金(\$2000)
計	¥2,529,027	
(5) ガラパゴスに関連する国際協力に係る事業	¥0	
(6) ガラパゴスに関連する調査研究の実施、支援、及び研究者の支援に係る事業	¥0	
(7) ガラパゴスに関連する諸機関の運営又は活動に関する連絡、助言、援助に係る事業	¥0	※ダーウィン研究所への支援については、(4)に算入した
事業費計	¥2,947,145	
2 管理費		
(1)人件費 役員報酬等	¥0	
(2)その他経費		
シェアオフィス利用費	¥97,900	ワンストップビジネスセンター青山 年間利用料
事務局管理費	¥400,000	事務局年間管理代
通信費	¥49,822	事務局携帯電話契約料、通話料、郵送料等
消耗品費	¥1,950	印刷用紙、ラベル、プリンターインク等
事務手続き費	¥14,071	振込手数料など
交通費	¥18,176	事務局交通費(打合せ等)
会議費	¥6,818	理事会・総会会場費等
雑費	¥11,952	コピー代、慶弔費など
管理費計	¥600,689	
経常費用計	¥3,547,834	
当期経常増減額	¥168,518	
当期正味財産増減額	¥168,518	
前期繰越正味財産額	¥3,791,291	
次期繰越正味財産額	¥3,959,809	

平成28年度 計算書の注記

特定非営利活動法人日本ガラパゴスの会

1.重要な会計方針

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日 2011年11月20日一部改正 NPO法人会計基準協議会)によっています。

(1)消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込み方式によっています。

2.事業別損益の状況

事業別損益の状況は以下の通りです。

(単位:円)

科目	(1)環境教育 普及啓発事	(2)情報提供 収集事業	(4)保全支援 事業	事業部門計	管理部門計	合計
I 経常収益						
1.受取会費			0	0	754,000	754,000
2.受取寄附金			73,654	73,654		73,654
3.受取助成金等	100,000		2,400,000	2,500,000		2,500,000
4.事業収益	236,200	152,384		388,584		388,584
5.その他収益					114	114
経常収益計	336,200	152,384	2,473,654	2,962,238	754,114	3,716,352
II 経常費用						
(1) 人件費						
現地スタッフ給付金 (保全支援活動)			2,529,027	2,529,027		2,529,027
(2) その他経費						
業務委託費					400,000	400,000
通信費	36,648			36,648	49,822	86,470
交通費	26,457			26,457	18,176	44,633
印刷制作費	253,616			253,616		253,616
インターネット費	0	12,960		12,960		12,960
会議費	6,240			6,240	6,818	13,058
資料費	17,758	13,212		30,970		30,970
記念事業費	47,997			47,997		47,997
オフィス利用料					97,900	97,900
消耗品・備品費	3,230			3,230	1,950	5,180
雑費					11,952	
手続き費等					14,071	14,071
経常費用計	391,946	26,172	2,529,027	2,947,145	600,689	3,547,834
(事業別)当期経常増減額	-55,746	126,212	-55,373	15,093	153,425	168,518

3.使途が制約された寄付金等の内訳

使途が制約された寄付金等の内訳(正味財産の増減及び残高の状況)は以下の通りです。

当法人の正味財産は3,959,809円ですが、そのうち使途が制約された財産はありません。

(単位:円)

内容	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	備考
BESSフォレストクラブ 支援協賛金	0	2,400,000	2,400,000	0	環境保全事業支援協賛金としてBESSフォレストクラブより交付を受けた240万円の全額を、対象事業に使用しました。

4.役員及びその近親者との取引内容

役員及びその近親者との取引は以下の通りです。

(単位:円)

科目	計算書類に計上された金額	うち、役員及び近親者との取引
(活動計算書)		
管理費		
事務局管理費	400,000	400,000
活動計算書計	400,000	400,000

第12期(2016年7月1日～2017年6月30日) 特定非営利活動に係る事業 会計財産目録

2017年6月30日現在

特定非営利活動法人日本ガラパゴスの会

(単位:円)

科 目	金	額
I 資産の部		
1 流動資産		
現金預金		
現金	10,112	
普通預金 みずほ銀行青山支店	1,186,569	
普通預金 三井住友銀行渋谷駅前支店	184,010	
郵便振替口座 ゆうちょ銀行	550,750	
ジャパンネット銀行	1,683,913	
前払金(BESSフォレストクラブ助成金)	2,196,000	
前払金(ガラパゴス鳥類ガイド)	465,555	
前払金(シェアオフィス利用料)	97,900	
流動資産合計		6,374,809
2 固定資産		
土地 所在 m ²	0	
建物 所在 m ²	0	
車両運搬具 乗用車 台	0	
固定資産合計		0
資産合計		6,374,809
II 負債の部		
1 流動負債		
前受会費	15,000	
前受助成金(BESSフォレストクラブ)	2,400,000	
流動負債合計		2,415,000
2 固定負債		
長期借入金	0	
退職給与引当金	0	
固定負債合計		0
負債合計		2,415,000
正味財産		3,959,809

第12期(2016年7月1日～2017年6月30日) 特定非営利活動に係る事業 会計貸借対照表

2017年6月30日現在

特定非営利活動法人日本ガラパゴスの会

(単位:円)

科 目	金 額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金預金	3,615,354	
前払金(BESSフォレストクラブ助成金)	2,196,000	
前払金(ガラパゴス鳥類ガイド)	465,555	
前払金(シェアオフィス利用料)	97,900	
流動資産合計		6,374,809
2 固定資産		
土地	0	
建物	0	
車両運搬具	0	
固定資産合計		0
資産合計		6,374,809
II 負債の部		
1 流動負債		
前受会費	15,000	
前受助成金(BESSフォレストクラブ)	2,400,000	
流動負債合計		2,415,000
2 固定負債		
長期借入金	0	
退職給与引当金	0	
固定負債合計		0
負債合計		2,415,000
III 正味財産の部		
前期繰越正味財産		3,791,291
当期正味財産増減額		168,518
正味財産合計		3,959,809
負債及び正味財産合計		6,374,809

第13期(2017年7月1日～2018年6月30日)事業計画

第13期(2017年7月1日～2018年6月30日)の事業方針及び事業計画は、以下のとおりである。

(1) 環境教育・普及啓発事業

2018年は、日本エクアドル外交関係樹立100周年、小笠原返還50周年、ガラパゴス世界遺産登録40周年という、記念の年が重なり、多方面で様々な行事が計画されている。JAGAではこれを機会に、ガラパゴスやその保全についてより多くの方に知ってもらえるような事業を積極的に行う。また、同じ世界自然遺産である小笠原諸島とガラパゴスの人的交流や情報交換の機会を多く設け、将来に繋がるような関係の構築に努めたいと考えている。これと関連して、自然管理や観光管理について、日本とガラパゴスの事例を双方に紹介することで、日本や世界の自然や環境保全に対して関心や理解が深まることを期待する。

- * 小笠原返還50周年記念事業：ガラパゴスの高校生を日本に招聘し、小笠原や内地(都内)に滞在してもらい、様々な交流やイベント等を行う事業(小笠原自然文化研究所と共同。予算確保済。3月を予定。)
- * ダーウィン研究所所長を日本に招待し、「ガラパゴスと小笠原」に関連したイベントを行う(国立科学博物館、上野動物園などと共催(予定)。来日は決定。渡航費の予算は確保、滞在費は未定。)
- * 日本エクアドル外交関係樹立100周年記念事業：「ガラパゴスと小笠原」展(国立科学博物館他、教育機関などとの共同事業(予定)。現在複数機関と企画・話し合い進行中。)
- * ガラパゴスと小笠原関係の学生や研究者の交流事業：継続的な人的交流を行い、若い世代の人材育成や保全に関する情報交換など、双方の将来にとって有益と思われる交流を目指す。東京都に予算を打診予定。
- * 「ガラパゴス鳥類ガイド」の発行、および頒布。7月に1000部納品済。今後頒布を行う。対象は主にガラパゴスへの旅行者。現地ダーウィン研究所の売店に置き、売上を寄附する予定(11月～)。
- * 「ガラパゴス写真コンテスト2018」開催、および「ガラパゴスカレンダー2019」制作、発行。ファンドレイジング/普及ツールとしても活用する。
- * その他、教育機関での講演、講師の派遣、出版物への原稿執筆や翻訳、監修など随時対応。

(2) 情報収集提供事業

ガラパゴスに関する正しい情報を的確に提供する。

- * ガラパゴスの自然管理および観光管理に関するウェブページの作成：日本のエコツーリズムや環境保全に対する情報提供など、関心やニーズが高い。
- * インターネットを活用した情報提供に力を入れる。(Facebookやメールマガジン、ホームページなど)
- * 教材や科学番組への協力、監修など、随時。ホームページ上で実績の掲載を行う。
- * マスコミや個別の問い合わせへの対応、情報・写真提供など、随時。

(3) 環境問題全般情報収集提供事業

特に予定なし。

(4) ガラパゴスの環境保全活動の支援

海鳥保全のための生態調査支援、昨年度に引き続きガラパゴス・ベルデ2050(ネイティブ・ガーデン作りや環境教育を含めた植生保全活動支援)、ダーウィン研究所活動支援を行う。経常的な支援に加え、現地のニーズについて随時連絡を取り、必要などところに必要な支援を行う。

(5) 国際協力事業

エクアドル本土を含めた国際交流および国際協力事業への支援を必要に応じて行う。(100周年記念事業)

(6) 調査研究支援事業

需要があれば、支援を行う。(日本人研究者など)

(7) 現地諸機関の運営支援事業

- ・チャールズ・ダーウィン財団運営支援：日本企業に自社製品提供などの支援をお願いする。

(8) その他、本会の目的を達成する上で必要な事業

- ・企業への働きかけを強化する。ガラパゴスに進出している日本製品を提供している日本企業、および旅行代理店に対して、保全支援に協力をお願いする。
- ・ガラパゴスに行った旅行者へのアプローチについても検討する。

平成29年度 活動予算書
第13期(2017年7月1日から2018年6月30日まで)

特定非営利活動法人日本ガラパゴスの会

科目	金額	備考
I 経常収益		
1. 受取会費		
正会員受取会費	350,000	60人
協会員受取会費	350,000	40人+3団体
計	700,000	
2 受取寄付金		
受取寄付金	1,500,000	個人、企業、および任意団体からを見込む
3. 受取民間助成金		
受取民間助成金	2,400,000	BESSフォレストクラブ支援協賛金
その他助成金	100,000	企業協賛金
その他助成金	1,000,000	交流事業について申請予定
計	3,500,000	
4. 事業収益		
普及啓発事業	300,000	カレンダー頒布、講演料など
情報提供事業	100,000	テレビ・出版支援事業
計	400,000	
5. その他収益		
受取利息	100	銀行利息
経常収益計	6,100,100	
II 経常費用		
1. 事業費		
(1) ガラパゴスに関する環境教育・普及啓発事業		
印刷費	800,000	カレンダー(500部)、鳥類ガイド(1000部)印刷
交通費	50,000	ボランティアや演者の交通費
通信費	40,000	郵送代
記念事業費	1,000,000	日本エクスアドル100周年/小笠原返還50周年記念事業
消耗品費	30,000	郵送用品等
会議費	20,000	ボランティアmtg会場費等
計	1,940,000	
(2) ガラパゴスに関する情報収集提供事業		
インターネット費	30,000	ホームページ更新、サーバー代
通信費	20,000	会報等郵送費
調査・資料費	30,000	情報収集のための資料購入費
印刷費	30,000	会報等印刷代
計	110,000	
(3) 環境問題全般に関する情報収集提供事業		
(4) ガラパゴスにおける環境保全活動の支援事業		
① ペンギン調査費助成	100,000	寄附等を充てる
② ガラパゴスベルデ2050(植生再生事業)	2,400,000	BESSフォレストクラブとの共同支援事業
④ ダーウィン研究所運営資金支援	200,000	寄附等を充てる
計	2,700,000	
(5) ガラパゴスに関する国際協力事業		
国際交流事業(記念事業)	400,000	日本エクスアドル交流事業の一部として
(6) ガラパゴスに関する調査研究関連支援事業	0	
(7) ガラパゴスに関する諸機関の運営支援事業	0	
(8) 予備費		
ダーウィン研究所支援用(緊急事業用)	150,000	
事業費計	5,300,000	
2. 管理費		
(1) 人件費 役員報酬等	0	
(2) その他経費		
シェアオフィス利用費	100,000	ワンストップビジネスセンター青山 年間利用料
事務局管理費	550,000	事務局管理業務委託費
通信費	50,000	郵送代、電話使用料、など
消耗品費	10,000	コピー用紙、ラベル、インクなど
事務手続き費	20,000	銀行振込手数料、ネットバンク利用料等
NPO保険費	10,000	NPO活動総合保険予定
交通費	30,000	事務局交通費
会議費	20,000	総会・理事会会場費等
雑費	10,100	コピー代など
管理費計	800,100	
経常費用計	6,100,100	
当期正味財産増減額	0	
前期繰越正味財産額	3,959,809	
次期繰越正味財産額	3,959,809	

役員を選任について（任期：2017年10月1日～2019年9月30日）（案）

理事会より、次期役員を選任に関して、以下の提案および報告を行う（五十音順・敬称略）。

1. 理事の重任（8名）、および新任（1名）

清水 善和（理事長）

眞板 昭夫（副理事長）

新木 秀和

奥野 玉紀

海津 ゆりえ

櫻 博子

波形 克則

西原 弘

矢ヶ部（倉田） 薫子（新任）

※これまで理事を務めた平川貴子氏については、任期満了に伴い、退任の意向を表明。

2. 監事の重任（2名）

枝松 克巳

里見 嘉英

【備考：当会定款の規定（抜粋）】

（役員の種類及び定数）

第13条 この法人に、次の役員を置く。

(1) 理事5人以上12人以内

(2) 監事2人以上4人以内

2 理事のうち1人を理事長、1人以上3人以内を副理事長とする。

（選任等）

第14条 理事及び監事は、総会において正会員の中から選任する。

2 理事長及び副理事長は、理事の互選とする。

3 （略）

4 （略）

5 監事は、理事又はこの法人の職員を兼ねてはならない。

以上